

在京宮崎県人会会報

ふやぎ

第 14 号
平成 10 年 11 月 1 日

在京宮崎県人会

TEL (03)3222-1448



日高啓 在京宮崎県人会々長挨拶

在京宮崎県人会総会
盛大に開催！

松形祐典 宮崎県知事の挨拶



県人会総会スナツプ

グリーン博みやざき99
キャンペーンレディの歌とダンス!!

本年度総会は九月二十八日(月)に慣例に従い「アルカディア市ヶ谷」に於いて開催された。

吉門信夫実行委員長(延岡市出身)の開会の言葉に始まり、日高啓会長(宮崎市出身)の挨拶があり議事に入った。

議事の進行役に古殿敬三(須木村出身)を選出し、松木國利幹事長(日向市出身)が議案の説明を行った。

先ず、「平成九年度事業実績及び決算について」報告事項として「在京宮崎県人会ふるさと訪問について」と議事が進行され、全員の同意が取りまとめられた。

議事終了後、松形祐典知事の祝辞及び県政報告が行われ国会議員の紹介後、菊野高雄県議会議長の音頭で乾杯が行われた。

更に、県下の各市長、宮崎日々新聞宮崎銀行、県大阪事務所長等来賓が紹介され、祝電披露後懇談会に入った。

懇談会では、アトラクションとして「グリーン博キャンペーンレディ(グリーンハーツ)」による歌とダンスが上演され、プレゼントとして高島屋よ

りの寄贈品、マリンエキスプレスよりペア乗船券、シーガイアグループからのホテルオーシャン45ペア宿泊券、市長村長よりの特産品の公開抽選が行われ、いやが上にも宴会が盛り上った。最後に岩橋都城市長の万歳三唱にて閉会され、知事や各市町村から戴いたお土産を手に解散した。



総会風景 ゆっくり座れるテーブル式にした今回の会場

県人△△と一金△△

浜田 明

県人会の皆様には益々お元気にご活躍のことと存じます。

同じ宮崎出身ということで、若い時から諸先輩にご指導頂いた事を、古希の今実に有難いことであつたと感謝の氣持で一杯です。

「県人会」を表の組織とすれば「一金会」は裏の關係にあるように思いますが、それ故に出席者が全く同格の形で、肝を打ち明けて話し合う伝統が継続されております。

会長等置かず出席者は全員幹事の積もりで会の運営に協力、会費は廉く今でも三千円です。

六十年余の伝統を思います時、この様なボランティア中心、雑草的組織を提案された田中長茂元知事さん等の先進的発想は、時代を越えて生きるものと思ひます。

愛郷心に富み、限らない愛情を後輩に注いでおられた有徳の士の多かつた事

を昨日の様に思い浮かべます。

各界で活躍された大先輩諸氏のオフレコ打明け話を、同じ会員としてお聞きしたことは、視野を広め時代を知ることには大変役立つと思ひます。

現在会の常連の方々の中には、父が又は先輩が「一金会」に出るのだと言つていそいそとして出掛けた姿が忘れられない。大きくなつたら是非「一金会」に出たいと思つていたという方々がおられます。

県人の縁を活かした密度の高い人間關係があり、世代を超えた交流や活発な論議が行われ、県の実情・問題点・将来ビジョン等についての自由なディスカッションは出席者のみならず、その周辺にまで影響を及ぼし、子に、孫に、後輩にと伝わっているのを見ます。

先輩方の残された教智を感じ、大切にしたいと思ひます。
(都城出身)

青年部の活動

米沢 剛

青年部での活動は、まず第一に在京の宮崎県出身者の親睦を図るために、年に数回の親睦会を中心に行つていきます。

また、九州各県青年部対抗ソフトボール大会や、ボーリング大会、クリスマスパーティーなど、九州各県の青年部合同での活動も行つていきます。

この様に、年間を通して活動を行っているわけですが、今後はもっと多くの人に参加していただく為にも、いろんな企画をしていき、今以上に魅力のある青年部にしていきたいと思ひます。
(青年部々長)



コンネに こんにちは

青木 康

「ふるさと宮崎」の思い出を、声はずませて語り合う同郷の人達で会場は熱気を帯びています。

在京**町会の発会式が始まりました。

「本会は、会員相互の親交を深めるとともに、郷土の発展に寄与することを目的とする」。

皆さんの心に、郷土愛が脈々と生きています。故郷への温かい真情に触れ私の胸は詰まりました。

規約、役員が承認され、ここに新しい在京**町会が誕生しました。

「今日は『コンネ』に集合して、全員でこの会場にやってきました。東京物産観光センターの所長に、宮崎のアンテナショップの説明をお願いします。今後、みんなで宣伝して盛り立てていきましょう」

さて、新宿駅南口を出ます。路線を挟んで左手に新宿高島屋、その右手真向かいに「コンネ」があります。歩いて僅か二分。

ご来店いただくお客さんが一日平均三千人、一月平均約八万人、年間百万人にも達することになります。

そしてなんと、「コンネ」の前を一日平均延七万人の人々が通行される。宮崎が、最高の場所に巨大巨額の「広告塔」そのものを建てたといわれる所以です。

また、今年度内に建設省とJR東日本が、共同で新宿駅南口の再開発事業を実施します。十年以内の完成を目指す一千二百億円の仕事で、新宿高島屋と「コンネ」の間に一万㎡の駅前広場ができる予定です。

周辺のアクセスがさらに良くなり、将来にわたって発展性の高い立地に「コンネ」はあるのです。

離陸したばかりの「コンネ」ですが、当初から在京宮崎県出身者の方々の力強いご支援を頂き心から感謝しています。お陰様で県産品の販路拡大や観光宣伝、フェアによる宮崎のイメージアップ、商品の改善・開発、地域交流等、設置目的に沿った効果をあげつつあります。

そのうえ、「コンネ」の設立を契機

に、先のような在京**町会が発会する。こんな嬉しいこともあるのです。

ご理解の通り、「コンネ」は宮崎県の企業や観光産業等振興に必要なアンテナショップであります。

宮崎の物産・観光・文化・イベント等の多くの情報を出来るだけ遠くに飛ばし、全国の受け手の情報を活かす役割を担う「手段」であります。

「目的」は、宮崎県の産業の振興、県民福祉の向上に役立つことであります。





「コンネ」は、経済最前線の地域名を冠した「世紀の新宿百貨店競争」といわれる日本を代表するデパート群の中にあります。無いものが無いといわれるモノとサービスが競合する戦場の真っ直中にあります。

アンテナショップといえども、生き残り競争の例外とはなりません。そんななか、「コンネ」での売れ筋特

産品は、物産観光センターの職員が商談を行っています。質や量がとわれる商品やサービスに対する注意や忠告、批判も少なくありません。

そんな有難いご批判やご意見、売れない事実もまた貴重な情報です。

商品の改善、改良点を探ることがアンテナショップの重要な仕事でもあるからです。直ちに、生産者や県の試験研究機関と協議を重ねます。

今、「コンネ」は確かに沢山の人々にぎわっています。

しかし、消費者やバイヤーの方々は、商品やショップの善し悪し、それを預かる職員の資質まで瞬時に判断して通り過ぎていきます。

お客様から見放されることのないよう、在京宮崎県人会の方々の知識と経験、ご批判と知恵をいただきたい、アンテナを更に高く研ぎすましたい。

そして、ふるさと宮崎の振興によって皆さんへの恩返しを果たしたい。

職員全員、そう考えています。

皆さん、ありがとうございます。

(東京物産観光センター所長)

民謡と私

永崎秀一郎

溯ること二十余年前、私はM銀行の得意先係長として一日中飛び廻っていました。

営業が終わると、残業や得意先の接待などで帰宅は遅く、家は寝るためのものだった頃です。宴会、飲み会で一番困るのは余興として何かやらなければならいことです。

当時、日暮里支店に勤務していました。一緒に飲む機会の多い或る社長さんが、民謡のベテランでした。ほろ酔い気分になる、民謡を朗々と歌い上げいつも聞はれてしまったものです。

入行以来ゴルフ、釣り、マージャンの趣味は多忙の中でもやっていました。が、「よし、民謡をはじめよう」と決意したのはその頃でした。

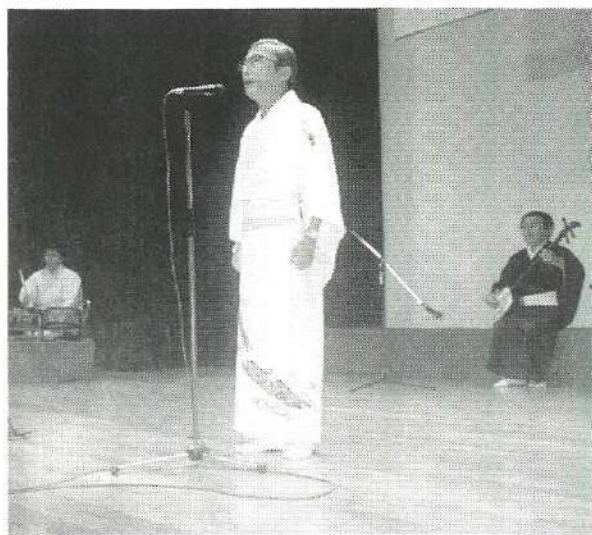
以前から休日の散歩の途中で、民謡教室の看板を目にしていました。或る日、不安と期待の複雑な気持ちで教室の入り口に立ちました。これが私と

民謡との出会であり、第一歩だったのです。

教室はお寺の集会所でした。中から中年のご婦人が笑顔で出てこられ、中へ導いて会員の方々を紹介してくれ、お茶を出して下さったのです。

その時感じた温かい雰囲気は、今でも忘れていません。

先生や会員の方から励ましの言葉をかけていただき、一息にお茶を飲み干しながら、少しは不安が解消しました。三味線の伴奏で上手に歌っているのを聞いて感動しました。



それ以来、同舟会（会の名称）の会員となり、今では古参のメンバーになってしました。

とはいっても、最初は声も出ず、仕事で忙しくて練習にも中々出られず何度か挫折仕掛けました。しかし、先生はじめ会員同志の理解のもとに長年続けて来ることができました。

先生は全員を平等に扱ってくださる人格者だし、三味線をひきながらの丁寧な教え方に皆の尊敬を集めています。

会員は同年輩の男女で気心も知れているし、春秋の旅を楽しんだり、民謡大会のあとの飲み会でカラオケに興じています。

毎週火曜日がレッスンですが、腹の底から声を出す胃腸にもいいし、何よりもストレス解消になります。

年に二、三回神奈川民謡連合会定期大会や各地区大会に出場しますが、合唱の時は平気なのに、個人コンクール・会代表での出演では緊張のあまり足が震えてしまいます。最初の頃はうまく歌えませんでした。今では先生にほめられることもあります。

民謡は、伝統芸能の中でも最も郷土

色豊かであるし、故郷の文化を今に遺すものだと思います。

北海道から九州まで歌われている民謡は数えきれませんが、一つ一つの歌に郷土の匂いが漂っています。

宮崎でも、歴史を映すひえつき節、故郷の山々を思い起させる刈干切唄、花嫁を馬に乗せたシャンシャン馬道中など広く歌い継がれています。

私は、民謡は心のふるさとだと思っています。これからも民謡を大声で歌って、心身共に豊かな人生を過したいと思っています。（えびの市出身）

関東ふれあいの道
知っていますか！

永迫 博司

正式名称『首都圏自然歩道』と言いついて、平成元年に完成した遊歩道です。名前のとおり関東地方、一都六県をぐるりと一周するもので、高尾山を起終点に、陣馬高原、奥多摩、秩父、上毛三山、筑波山、九十九里浜、房総三浦半島、丹沢などの名勝の地を結んでいます。

美しい自然をたのしむだけでなく、各地の歴史、文化遺産に接する。文字通り『ふれあいの通り』です。

とはいっても、だれでも歩ける散歩程度のものから、登山の経験が必要とするようなコースまで、難易度にはかなり幅があり、色々な楽しみ方が可能です。コースは全部で一四四コース、全長一六六七kmあります。

この道の発想の原点は、関東地方知事会の席上、「一都六県がてを結んでできる仕事は何か」という問題提起から始まって、推進されたといわれております。それから十数年後「手ならぬ足で一都六県が見事に結ばれた」と当時のマスコミは報じております。

今、中年から熟年にかけて、健康へ



の関心が大変に高まっていると思いますが、県人会の先輩諸氏はいかがでしょうか、健康の話題になると必ずといっていいくらい取り上げられるのが、歩くことの効用です。

私は高校時代、健康を取り戻す為に、始めた霧島登山が趣味となり、社会人となって暫く中断しましたが、関西勤務がきっかけで、『東海自然歩道』とめぐりあい山歩きを再開しました。

平成2年に東京勤務となり、天気の良い休日は首記歩道か近郊のハイキングコースを歩いております。それにしても最近のハイキング（軽登山）ブームは凄いですね。土日に高尾山に登られた方はごぞんじでしょう、頂上では弁当を開く場所に一苦労しますからね。ここ十年の『歩き』のおかげで体は丈夫になりました。後数か月で還暦を迎えますが、これからは益々、足を使って楽しみを作っていくと色々計画しています。

熟年の皆さんが、ご夫婦であるいはグループで、体力にあったコースを、ゆつくり楽しみながら歩かれることをお勧めします。

（野尻町出身）

日本人の納税意識



中村 蓮

一 昭和二十二年シャープ勧告により賦課課税制度が導入された。

申告納税制度とは、納税者自ら所得金額や税額を計算しそれに基いて申告し納税する制度である。それから五十年を経過してようやく事業所得者に定着されつつあるが未だに収入と所得の区別が分らない者も少なくない。さすが徴税機構の整備、情報化社会の現下売上げ金額、仕入金額の脱漏は少なくなつたといえる。一方、給与所得者は、我が国独特の徴税手段である源泉徴収制度を導入した。企業主や事業主に源泉徴収義務者という責任を負わし利子配当、給与、賞与、報酬の支払いの際税金を天引きして納税させる制度である。大多數の給与所得者はそれに該当し銀行振込みや現金支給されるわけである。国側から見れば事務の簡素化、能率化を目的としてゐる。しかし零細企業の源泉徴収義務者は何のメリットもなく事務量が増え責任も重い。勤労者

である給与所得者は総支給額から税金等を差引かれた金額で生活設計をしなければならず給与を受取る奥様族も給与明細書を何割の者が見られるのか。

給与から差引かれる所得税、地方税、健康保険料、厚生年金を国民負担率といい現在三八・二％となっているがこれからの高齢化、少子化社会の時代に政府は四五％から五十％に拡大せざるを得ないと報道している。差引かれるからしょうがないで済まされますか。

二 今国会で成立した特別減税は国税の場合、独身者で三万八千円、標準世帯（妻と子供二名）で九万五千円の減税が実施されることになった。聞いた話だが国税を納付していない者が、減税法案が国会で制定したので何時還付してくれるかと税務署に問合わせたまた会社勤務の事務員が自分は納付していないが会社としては源泉税を納付しているのので減税分を還付して欲しいという税に対する無知識振りが伺える。

平成十年分は、標準世帯で四九〇万ぐらゐまで無税となり、勤労者の相当数が所得税を納付しなくともよいが低所得者層の課税強化になるかも知れない

いが課税最低限を引下げて幅広く納税することより国の財政すなわち歳入、歳出を見守りたいものだ。

三 現在の小中学生、高校生の社会の教科書には「納税は国民の義務」

「税金は国会で審議される」「直接税と間接税の比率」とか数行の教科書内容である。近年税務当局は国、県、市町村に租税推進協議会を発足させ租税教育に力をいれている。子供の教育方針が社会問題になっている昨今、もっと租税教育を徹底すべきであろう。

四 法律は、人間が作ったもので本来誰でも理解できるものでなくてはならないが諸法律のなかでも税法ほど理解できない法律はない。

五 平成十年度国家予算の約七兆のうち租税収入及び印紙収入は約五兆八兆円で残りは国債で賄われる。

二十一世紀に入るとますます高齢化、少子化時代に入り、かつ、国債二七兆兆を返済しなければならぬ。

源泉徴収制度の見直し、租税教育の徹底、恒久的な税制、誰もが理解できる税制を確立し納税意識を高めたい。

（税理士・小林市出身）

平成十一年新年一金会

平成に於ける『一金会』

(資料提供：金丸孝徳氏)

一年 横山 スエ 椎葉物語(びわ歌)

二年 東野 宗利 地球環境破壊と食料農業問題

江藤 隆美 政界夜話

河野 弘善 西郷隆盛と大久保利道

太田原房子 外資系企業と女性

奈須 敬二 地球温暖化により魚はどうなるか

三年 浦 宏 株・一億円への道

甲斐幸午郎 古代史と日向の謎

秋月 龍眠 禅と健康

瀬戸山三男 日本の道

松浦 光利 マダカスカルに眠る特殊潜航艇・調査

四年 黒木 靖夫 ウォークマンからの脱却

青木 健児 ハイビジョンの運命

五年 新年懇親会 自己紹介

榎本 郁夫 日本経済の現状

六年 奈須 敬二 海から見た日向の自然と未来

新年懇親会 自己紹介

高雄 清子 魔法の一本編みに至まで

立山 喬 世界の動きと日本の今後

飯谷 昭夫 郷土の先輩から学んだ健康法

七年 新年懇親会 自己紹介

大河内昭爾 高木兼寛と森鷗外

福丸 容吉 民間都市開発と宮崎青島リゾート開発

機構について

藤井 治芳 景気対策と建設

八年 新年懇親会 金屋八紘(邦楽)・自己紹介

おそどまさ 地球一人歩き

山口 久一 塀の中の思いで・死刑因の事等

長峯 基 最近考えていること

桜井 哲雄 東九州の交流拠点都市を目指して今・延岡は

九年 新年懇親会 金屋八紘(邦楽)・自己紹介

荒竹 純一 米国で見て、聞いて、感じ、癢に障ったこと一法律家の立場から

甲斐幸午郎 百済の里ものがたり

内嶋善兵衛 地球温暖化とその影響

島津 厚久 生涯を振り返っての社会の変遷

河野 弘善 西南戦争から百二十年

十年 新年懇親会 金屋八紘(詩吟朗詠)

・記念撮影

広島 昭夫 社会における企業の責任

在京市町村会(平成十年十月現在/資料提供:宮崎県東京物産観光センター)

在京宮崎県人会 事務局・東京都千代田区九段南四ノ八ノ二 宮崎県東京ビル

宮崎市	無	高崎町	無
	弦月会 望洋会 木犀会	高原町	高原会 330名
	おがたま会 宮大同窓会	野尻町	野尻会 297名
都城市	都城地方同郷人会 3757名	須木村	須木会 109名
	義友会 都商 都島 都工	高岡町	高岡会 35名
延岡市	無	国富町	無
	関東向洋会 延友会	綾町	無
	土々呂会 安賀多会	高鍋町	無
日南市	日南会 1735名		高鍋高校在京同窓会
	東京黒潮同窓会(日南高校)	新富町	無
小林市	小林会 1160名	西米良村	無
	桜萩会 小林高校	木城町	木城会 50名
	旧制中高女 関東地区同窓会	川南町	川南会 116名
日向市	無	都農町	矢研会 106名
	富島高校同窓会 あらぶる会	門川町	門川会 328名
串間市	串間会 1371名	東郷町	無
西都市	聖陵会 192名	南郷村	南郷会 250名
えびの市	えびの会 370名	西郷村	西郷会 124名
清武町	清武会 185名	北郷村	五十鈴会 180名
田野町	わにつか会 7名	北方町	無
佐土原町	佐土原会 325名	北川町	北川会 140名
北郷町	北郷会 81名	北浦町	無
南郷町	南郷会 409名	諸塚村	諸塚会 227名
三股町	三股会 350名	椎葉村	椎葉会 103名
山之口町	無	高千穂町	高千穂会 318名
高城町	無	日之影町	日之影会 198名
山田町	山田会 361名	五ヶ瀬町	無

矩輪 佳木 俊俊 日記

ふるさとの母にねだらむとおもひ
ぬし椎の実をけふ友より貰ひぬ

牧水

古里を思う時節になった。

父母、友、そして山河などが目に
浮かんで来る。

季節感さえうすれ、流されそうな
喧騒の中にあっても、この時期だ
けは特別な心持ちになる。

思いを寄せる古里を持つ私たち
は恵まれている。それだけに、古
里のことが気になる。

そんな中、二月 帝國ホテルで
の「宮崎サミット誘致懇親会」、
続く三月 「新宿・みやざき館」
KONNEオープン、積極的な
「宮崎アピール」として私たちを
驚かせた。

特に、若者のまち新宿にできた
「みやざき館」への期待は大きく
おおいに楽しんだ。

県内各市町村の商工観光・同業種
組合などのイベントも活発に行わ
れ賑わっている。生産関係者自ら
が販売コーナーに立つ姿に、その
意気込みを感じる。

待合せの場所としても便利だし
ときには立寄り、声をかけてあげ
るのも私たちに出来得る古里への
応援のひとつかもしれない。

誰もが元気な古里を願っている。